

革命防衛へ！ キューバとさらなる連帯を！

7月11日(日)、キューバ各地で『反政府デモ』が起きました。一説には、6カ所で合計5000人ほどが参加したと言われています。

原因の一つはパンデミックによる経済の落ち込みがあります。バイデン政権は、トランプが敵意むき出しでキューバに課した243項目の経済封鎖強化策の一つとして解除せず、「テロ支援国家」指定の撤回もしていません。こうした米国の封鎖政策により、平時でも正常な経済活動が妨げられている上、コロナウイルスによるパンデミックで世界的に最も大きな打撃を受けている観光業を主幹産業とするキューバのダメージは測り知れません。

一方、米国は国内外の個人に資金提供し、革命政権に対して敵対行動を取らせる従来からの「傭兵工作」に加



え、数カ月前から国務省、USAID(米国国際開発庁)などの資金でSNS上にロボットやアルゴリズムを駆使した大量のアカウントを作成しキューバ社会への不安定化工作を準備してきました。

今回の出来事は、経済封鎖の効果がパンデミック下、最大限に出ている状況を見計らった米国による「ミッション」であることに疑いの余地はありません。

● 7月11日、日曜日のできごと



7月11日朝、ハバナ、アルテミサ州、マタンサス州など国内6カ所で「反政府」を叫ぶグループが通りに出てデモンストレーションを始めました。

そうしたグループの中には公用車やパトカーを破壊



したり、店舗を襲って略奪したり、場所によっては投石で住民に怪我を負わせるなど、暴力に及ぶケースもありました(写真:左上「壊された車」)。

ディアス=カネル大統領は最初の「デモ」が起きたアルテミサ州サン・アントニオ・ロス・バニョスに少人数のボディガードを伴って急行、市民と対話し、行進(写真:右上)するとともに、テレビ等で「闘いの命令が下った。革命家は街頭へ」(写真:左)と全国に呼びかけました。これに応じ、各地で大群衆がキューバ国旗、7.26運動の旗、フィデルのポートレート、プライカードを手に集まり、デモ行進、集会を行いました。平穏な生活が脅かされた市民たちは怒りをこめて叫びました。

La calle es de revolucionarios! 「通りは革命家のものだ！」

「反革命の居場所は、ここにはない！」という意味です。

また、「キューバ Yes、ヤンキー No」の叫びも多くの場所で聞かれました。謀略の背後には必ず米国がいることをキューバ人はよくよくわかっているのです。

**Díaz-Canel al pueblo de Cuba:
"La orden de combate está
dada, a la calle los
revolucionarios"**



● 国内に高まる革命防衛の意志

革命擁護の集会は全ての州で開かれ、革命を支持する人民の強い意志が示されました。

革命防衛のため街頭に出た大勢の市民を前に、「反革命」グループは姿を消し、チリやコロンビアのように銃弾も催涙弾も一発も発射されることなく治安が回復されました。

7月17日、改めて、全ての州で「革命支持集会」が開催されました。10万人以上が結集し、ハバナのマレコン通りで開かれた集会には第8回党大会で引退したラウル・カストロ前議長の姿がありました。引退の挨拶で「必要とあらば一革命家としていつでも闘いにはせ参じる」と言ったラウル氏はさっそく革命防衛の闘いに駆け付けたのでした。



大統領とラウル・カストロ前議長



10万人がマレコン通りを埋め尽くした



フィデルのポर्टレート掲げ、革命を守る行動に出た市民（ハバナ）

● メディア攻撃（デマ）との闘い

SNSで「反政府」デモを煽動したアカウントは、スペインや米国（マイアミ）などで1秒間に5回のツイートが可能にするBotという高度なシステムを使い、フィデルが口にした革命的スローガン「祖国か死か（Patria o muerte）」を皮肉った「祖国と生（Patria y vida）」や「SOS Cuba」をハッシュタグに、反革命キャンペーンを拡散しました。

こうしたアカウントの多くは6月末から7月12日までの間に新たに作られたもので、「7.11」以降も大量のデマを流しており、CNNやBBCなど主要メディアもこうしたデマを、おそらく「承知の上で」そのまま報道しています。主なデマは…

- ・ エジプトの反ムバラクデモ、スペインのカタルーニャ独立運動、フランスのイエローベスト運動、香港の雨傘運動、果ては、サッカーのコパ・アメリカン優勝に沸くアルゼンチンの群衆までも「キューバの反政府デモだ」と偽る
- ・ 革命擁護のために街頭に出た群衆を「反政府デモだ」と偽る
- ・ マイアミの反キューバ勢力のデモを「キューバで行われた反政府デモだ」と偽る…などです。

「人がいっぱい集まっている写真」はすべて「キューバの反政府デモ」にしてしまう勢いで、意表を衝くようなデマを連発しています。

7月13日、マイアミ市長は「キューバへの人道的軍事介入」を主張し、バイデン米国大統領も、新たなキューバ「制裁」の口実にしようとしています。つまり米国の介入や制裁はこうしたデマの上に組み立てられているもので、「米国政府とデマ屋の傭兵は一体である」ことは明らかです。

「傭兵」とはどういう人々か？



ここで、傭兵とは具体的にどういうものか、今年1月あたりから活動を活発化させてきた「サン・イシドロ運動」という反体制「芸術家」グループのメンバーの例を紹介します。デニス・ソリス・ゴンサレス(左)は、キューバ当局のインタビューに答

え、「フェイスブックを通じてコンタクトをとってきた人物から200ドルもらって協力してきた」と語りました。「政治的な意思はない。興味があるのは金だけ」とはっきり言っています。

もう一人、オテロ・アルカンタラ(右)は、先月、「抗議のハンスト」を行い、米国やEUのメディアに「キューバ

の人権問題」として取り上げられました。彼は「芸術家」と紹介されていますが、このような見世物が芸術的とは？ どう評価されるのかよくわかりません。

しかし、彼のように「キューバには自由がない」とアピールすればスポンサーが現れて金と引き換えに仕事を与えられるということが日常的に行われているわけです。

この他、マイアミの「反キューバトロ組織」からフェイスブックを通じて「警官を殺害して証拠写真を送れば金をやる」など、金銭と引き換えに重大な犯罪を唆すメッセージが送られてきたという例も多数あります。



● 高まるキューバとの国際連帯

キューバの「反政府デモ」は、国際的にも大きな波紋を投げかけました。

メキシコのロペス・オブラドール大統領は、「デモ」の翌朝（7月12日）の大統領定例記者会見で「キューバは自由で独立した主権国家だ。干渉主義はあってはならない。キューバを援助すると言うなら、世界中のほとんどの国から要求されているように、最初にやるべきことは経済封鎖の撤廃だろう」と米国の干渉を牽制し、それに続くように、ベネズエラ、ニカラグア、ボリビア、ロシア、アルゼンチン、中国などが「キューバ政府とキューバ人民を支持し、経済封鎖の撤廃を改めて求める」との声明を相次いで出しました。



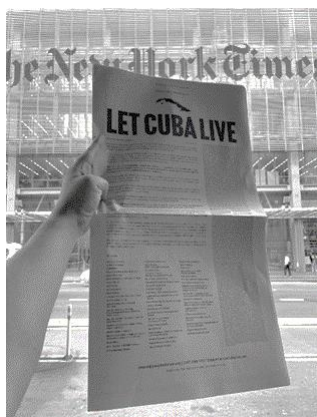
ロペス・オブラドール大統領（7月12日）

また、各国の政党、団体からも『キューバ共産党・キューバ政府支持声明』が出され、世界各地で、キューバ連帯集会が行われました。

一写真右：各地で開かれた「キューバ連帯集会」（上から）ボリビア、スペイン、アルゼンチン、インド、ギリシア



また、バイデン米国大統領に宛てた経済封鎖を終わらせるための公開書簡にオリバー・ストーン、ジェーン・フォンダ、ノーム・チョムスキーら世界の400人の著名人が署名、ニューヨークタイムスに掲載されました（写真左）。



こうした連帯表明とあわせて、各国からの物質的支援も政府レベル、民間レベルで積極的に取り組まれています。

メキシコ、ロシア、中国、

ニカラグア、ボリビアなどからワクチン接種に必要な注射器などの医薬品や食糧品が輸送船や軍用機で届けられました。ボリビアのルイス・アルセ大統領は、『連帯とは持てるものが少しでも、より必要としている人々と分け合うことをキューバから教えられた』とし、国会で「キューバ支援法」を制定（写真：右上）、積極的に支援していく姿勢を打ち出しています。

また、イタリア政府は世界食糧計画（WFP）を通じキューバへの食糧援助に12万ユーロを寄付、カナダ政府はユニセフを通じキューバに医薬品の支援を決定するなど、「西側諸国」も米国の監視をかいくぐるように国連のシステムを活用してキューバ支援を行っています。

また、各国のキューバとの友好団体も支援カンパや支援物資の寄贈などを取り組み、大きな成果を上げています。



キューバ国旗を掲げ「キューバ支援法」成立を祝うボリビア、アルセ大統領



ニカラグアから船でキューバに届けられた支援物資



「祖国か死か！」

キューバ人ボクサーの叫び



¡Patria o Muerte, Venceremos!

東京五輪、男子ボクシングヘビー級チャンピオン、フリオ・セサル・ラクルスは準々決勝で、スペイン代表エマヌエル・レジェスを下した直後、拳を高く掲げて叫びました。
「祖国と生はNoだ！祖国か死か、我々は勝つ！」

反キューバ政府キャンペーン「祖国と生」を否定し、正しい革命スローガンを叫んだのです。これにはある事情があります。

敗れたスペイン代表選手は、もとはキューバ人で、親戚を頼ってスペインに渡り、スペイン国籍を得ただけでなく、この間、SNS上で繰り返されたハッシュタグ「祖国と生（Patria y vida）」を用いた反キューバ政府キャンペーンに参加していたことがわかっています。

五輪の政治利用との批判もあるでしょうが、フリオ・セサル・ラクルス選手の叫びは、不安定化攻撃と闘うキューバの人々を大いに励ましたことは間違いありません。

● 日本からもキューバ連帯を

7月11日の「政府への抗議デモ」が大きく報道される中、7月17日、アンヘル・ラミレス駐日キューバ大使によるリモート講演が行われ、「キューバの状況」について説明がありました。

この中でラミレス大使は、SNSを通じた「外からの」キャンペーンや煽動が「デモ」の直接的な原因ではあるが、米国の経済封鎖の強化が引き起こしたインパクトが医療制度、電力供給、食糧、医薬品の供給など市民生活に大きく影を落としている現状を狙ったものであると話されました。

また、8月5日には「非常戦争」を強いられているキューバに連帯を届けるため、キューバとの友好・連帯活動を行っている諸団体の有志が緊急に集まりを持ちました。

思い思いのプラカードを持ち寄って駐日キューバ大使館前に集合した約20人の有志は、「キューバ革命への連帯声明」を採択し、駐日キューバ大使館のミゲル・A・ラミレス大使に手渡しました。

大使は「キューバがもっとも必要としているのは連帯の声と行動だ」と参加者に謝意を表明しました。

CUBAPONは7月17日、ICAP（キューバ諸国民友好協会）とキューバ大使館に連帯声明（右）を送ったほか、8月5日の行動に鎌田篤則事務局長、根岸均会員が参加し、『キューバへの経済封鎖をやめろ』、『キューバには自尊心がある』と書いたプラカードを掲げてきました。

日本キューバ連帯委員会(CUBAPON)は キューバ人民とキューバ政府を完全に支持する！

日本キューバ連帯委員会（CUBAPON）は、キューバ人民とキューバ革命政権を完全に支持し連帯することを表明するとともに、キューバ政府を貶めるためのメディア攻撃と、コロナウイルスによるパンデミックの真っ只中、内政干渉の口実を求めて社会的混乱を引き起こそうとする企みを拒否する

プラヤ・ヒロン侵攻と同様、傭兵たちは米国に組織され、資金提供を受けていることを世界は知っている。私たちは彼らによって引き起こされた市民への攻撃を含む暴力行為を力を込めて非難する

日本の諺に「雨降って地固まる」という言葉がある。キューバ人民は革命防衛のため直ちに街頭に出た。また、ボリビア、メキシコ、アルゼンチンなどの政府は改めて米国による経済封鎖の撤廃を求めた。帝国主義が暴力と干渉を進める中、我々は平和と連帯を世界に築き上げていこう

CUBAPONは国際医療団ヘンリー・リーブ隊やワクチン開発のキューバの貢献を繰り返し認識している。国際連帯の模範であるキューバへの強い支持を確認する

我々は勝つ！

2021年7月17日

日本キューバ連帯委員会（CUBAPON）



【写真】

(上)：キューバ大使館前で連帯行動
(左)：CUBAPONが掲げたプラカード
(右)：左から、鎌田 CUBAPON 事務局長、ラミレス大使、根岸さん



緊急！

キューバ支援カンパにご協力を！

キューバは今、COVID-19 禍にあっても医療の整備により国民の命を守る闘いを続けていますが、経済封鎖の強化により全般的困窮を強いられ、かつ今回仕組まれた SNS を利用した攻撃にさらされています。

7月17日に行われた「7月11日事件」に関する大使のリモート講演の中で、参加者から「キューバに支援物資を送りたいがどうしたら良いか」という声があ

がり、これに大使館が応え、大使館を通じて本国に送ることとなりました。

CUBAPONとしては、医療器具を送るには専門知識が求められることから『緊急！キューバ支援カンパ』を募り、連帯を届けることとします。皆様のご協力をお願いします！（別途チラシをご参照ください）



今、中南米では

中南米情勢が緊迫しています。
CUBAPONはキューバ連帯の旗を掲げるとともに、中南米の人民の闘いと状況を発信します。



ペドロ・カスティージョ大統領就任！一ペルー

6月6日投票のペルー大統領選挙の当選者が7月20日に中央選管から正式に発表され、『ペドロ・カスティージョの当選』がようやく宣言され、独立記念日(7月28日)にカスティージョ新大統領が誕生しました。



ペルー独立200年のこの日、史上初めて先住民出身の大統領です。

1カ月以上ゴネ倒したケイコ・フジモリの「不正選挙申し立て」は結局1件も立証されませんでした。ケイコ氏は中央選管の発表を認めつつ「今後も不正選挙と街頭で闘う」としていますが、選挙期間中、保留されていた実刑が確定することから近く懲役刑となることは確実です。

非常に僅差の勝利で、階層間の断絶がこの選挙で顕著になったことから、カスティージョ大統領は厳しい政権運営が迫られると見られますが、投票日以来、一致団結して勝利を守り抜いた力を武器に、支持層とともに頑張ってもらいたいですね！

ペルー、リマグループ脱退！

ペドロ・カスティージョ大統領のもとで「新たなペルー」が始動しました！

8月7日、ヘクトル・ベハル新外務大臣がペルーの「リマグループ」脱退を発表しました。

リマグループはベネズエラに干渉し圧力をかけるために結成された同盟で、ベハル外務大臣は「政治的な違いを理由に干渉しない」とはっきりと述べています。

この間、リマグループからメキシコ、ボリビア、アルゼンチンが相次いで脱退し、今回、ペルーがそれに続いた格好です。尚、メキシコ、ボリビア、アルゼンチンの3カ国は、2019年のボリビアでのクーデター以降、クーデターの共謀者だった米州機構のアルマグロ事務総長に対する批判を強めており、「北米大陸(米国・カナダ)を含む米州機構不要論」、「ラテンアメリカ、カリブ諸国の統合」にたびたび言及しています。ペルーのカスティージョ政権もこうした意見に近いのではないかと考えられます。

尚、余談ですが、リマグループは結成されたのがペルーの首都リマだったことから、この名称になっていますが、ペルーが脱退した今、どんな名称になるのか、ちょっとした話題になっています。ベネズエラ人はSNSでこんなこ

とをつぶやいています。

「もう、正直にマイアミグループにすればいいのに！」尚、ペドロ・カスティージョ氏は7月15日、キューバに連帯するメッセージを出しています(下)。

キューバの闘いは「50年以上」ではなく、正しくは「60年以上」ですが、この際、細かいことは申すまい。キューバとペルーの新たな友好関係を期待して、乾杯！

私たちの兄弟キューバ人民の置かれている状況に連帯する。

歴史的な経済封鎖は、特に私たちが世界的なパンデミックの危機にある中で、さらに非人道的で不道徳である。キューバ人民は、直面している過酷な生活状況に対して50年以上前から正当に声を上げている。

何よりもまず米国による経済制裁に黙ることなく、市民の必要に応じ、すべて姉妹国キューバの国内で解決されなければならない。私たちはラテンアメリカの国として緊急の経済統合を支持し、キューバの主権を守る。

ペドロ・カスティージョ

セニョリータの ラ米★ウォッチ



中南米のホットなニュースを不定期でお届けしています。

配信ご希望の方はこちらのアドレスにメール下さい！

jvccpf@rmail.plala.or.jp

キューバ訪問を夢見て



「キューバ友好訪問団」は、コロナ禍により2020年、2021年は実施できませんでした。現在、来年4月下旬出発を展望し、計画を温めているところです。

キューバ訪問団(4月下旬出発調整中)



・キューバが開発した5種類の国産ワクチンのうち「アブダラ」は3回接種で95.5%、「ソベラナ02」2回、「ソベラナPlus」1回接種で91.2%という高い有効率が確認されました。

・自国でワクチンを生産し、医師、医療労働者の層の厚さは世界トップのキューバですが、米国の経済封鎖による物不足が医療現場にも押し寄せ、注射器不足でワクチン接種が遅れています。経済封鎖の非人道性が改めて露わになったと言えます。

・日本は、オリンピック強行をはじめコロナ対策全般で失敗を繰り返し、深刻な医療崩壊を招いています。「自力で息ができなくなったら119番」とか、冗談にもほどがあります！

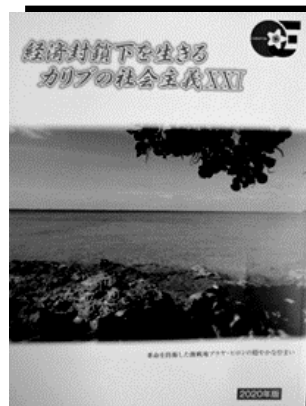
・金も物もある。経済封鎖もされていない、それでも命は二の次にされている私たち。だからこそ、物はなくても命を守るために医療に力を注ぎ、頑張っているキューバに惹かれるのかもしれない。

・そして、こんなときだからこそ、キューバ訪問の展望を持ち続けたいと考えています。

・最終的な判断は9月になりますが、来年4月は難しくても、「いつかキューバに行きたい！」という方も含めて、ご連絡ください。

関心ある方はご一報を

TEL : 03-3268-4387
E-mail jvccp@rmail.plala.or.jp
IFCC(鎌田)



経済封鎖下を生きる カリブの社会主義 Vol.21

2020年版

革命60年のキューバを記録したレポート集です。ぜひお求め下さい！

頒価 800円

	都市名	スケジュール	食事
1	羽田発 ハバナ着	午後：エアカナダで空路、トロントへ 国際線乗継ぎ、ハバナへ	朝：機 昼：機 夕：×
2	ハバナ サンティアゴ	【世界遺産】ハバナ旧市街・モロ要塞、革命博物館、小説「老人と海」舞台コヒマルなど 空路、サンティアゴへ	朝：○ 昼：○ 夕：○
3	サンティアゴ	サンタ・イフィヘニア墓地でフィデルのお墓参り モンカダ兵営、サンティアゴのモロ要塞など	朝：○ 昼：○ 夕：○
4	サンティアゴ ハバナ	ピランのフィデル・カストロの生家を訪ねる他、 モンカダ兵営襲撃ゆかりの地、シボネイ農場など 空路、ハバナへ	朝：○ 昼：○ 夕：○
5	サンタクララ	チェ・ゲバラ廟、ゲバラ博物館、カピーロの丘、 列車転覆博物館など、チェゆかりの地を訪ねる	朝：○ 昼：○ 夕：○
6	ハバナ	診療所・学校視察、友好協会・労働組合中央本部表敬訪問、 ハバナ市内にてショッピングなど	朝：○ 昼：○ 夕：○
7	ハバナ発	早朝、エアカナダで空路、帰国の途 トロント経由、羽田へ	朝：○ 昼：機 夕：機
8	羽田着	午後：羽田着 お疲れさまでした	朝：一 昼：機 夕：×
OP	青年の島	延泊して青年の島・「友好の家」訪問	

TOUR OPERATOR

アイエフシー

はCUBAPON関連の手配旅行社です
キューバをあなたに届けます

- ◆ アイエフシーはIFCC国際友好文化センターの関連旅行社です。“人と人との出会い”を通じた友好・交流プログラムを演出します。
- ◆ アイエフシーは文化、政治、福祉、環境分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いします。
- ◆ アイエフシーはキューバなど中南米、ベトナム・中国などアジア、ドイツなど西欧、デンマークなど北欧のプランニングを行っております。

東京都知事登録旅行業第3-3757号
〒162-0801

東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405
TEL 03-3268-6014 FAX 03-3268-6079